

クリニックレター 2022年4月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

(続編)吾道一以貫之：一貫堂医学とは

前回は、明治期に、森道伯によって形作られた「一貫堂医学」について概説しました。一貫堂医学は、体質医学とも言えるもので、今の病状が生ずるに至った、これまでの生活歴、食習慣、遺伝子の体質などを考えながら、今現在だけではなく、未来に起こるであろう疾患までも予見し、予防していこうという医学です。

今回は、一貫堂の三大体質について、もう少し詳しく述べていきます。

1) 瘀血証体質：「瘀」とは「悪」につながり、「瘀血」とは非生理的な血液が体内に留滞することを言います。人体には、太さ約2-3cmの大動脈から100分の1ミリメートル以下の毛細血管までさまざまな太さの血管が、なんと地球2周半分、10万キロの長さで分布しています。これらの血管の中を血液が正常に流れているのが健康なヒトの体ですが、動脈硬化により血管の内径が狭くなったり、血液の粘度が上がったり固まりやすくなると、血流が渋滞を起こしやすくなり、「瘀血」を形成します。瘀血体質の方の特徴としては、①舌の色が暗い②舌に暗赤色～黒色の斑点がある③舌の裏側の静脈が怒張している④脈が渋脈（血液の運行がスムーズでないことを表す）⑤お腹の診察で下腹部に圧痛が著明⑥皮膚に静脈瘤やくも状血管腫がある⑦体のどこかに固定性の痛みがあるなどがあります。瘀血はさまざまな疾患の原因となりますが、特に子宮筋腫や子宮内膜症などの婦人科的疾患やそれに伴う月経困難症あるいは月経前症候群(PMS)、さまざまな悪性疾患、精神疾患などが上げられます。(また、病気の結果瘀血を生じる、という事もままあることです)

瘀血証を改善する漢方薬：いわゆる「駆瘀血薬」と呼ばれるものがそれにあたります。代表的な生薬には、紅花、サフラン、桃仁、牡丹皮、蘇木などがあります。一貫堂では、瘀血証体質に通導散(ツトドウサン)という処方を用いることから、瘀血証体質=通導散証と言われることもあります。

2) 臌毒証体質：「臌毒」という言葉は古来は直腸から肛門にかけての腫瘍を指していたようですが、一貫堂医学では、風毒(さまざまな感染症)食毒(現代で言う生活習慣病)水毒(水の代謝異常)によって起こる疾患を総称しており、肥満体質(特に腹部)で顔の色はどちらかというとい白い(飲酒家は赤ら顔)事が多いと言われます。臌毒証体質がかり易い疾患としては、糖尿病、高血圧症、脳卒中などがあります。

臌毒証を改善する漢方薬：臌毒証体質には、防風通聖散(ボウフウツウジョウサン)が専ら用いられます。防風通聖散は18種類の生薬から構成される方剤で、上記の風毒・食毒・水毒を、発表(体の表面から汗とともに)、攻下(大便と共に)、清熱(体内で解毒)、利水(尿と共に)という四つのルートから駆逐、清熱



青空に映えるミモザ

する処方です。現代では、OTC(オーバー・ザ・カウンター：すなわち医療機関ではなく薬局薬店で購入できる医薬品)メーカーが、防風通聖散に“ナイシトール”や“ココアポ”という名前をつけて売り出しているのが、こちらの方が皆様にはなじみが深いかと思えます。ちなみに一貫堂の創始者森道伯先生の昭和初期の外来では、初診患者の実に約30%に防風通聖散を用いられていた、という記録がありますが、この時期は国内経済が比較的安定しており、美食、飽食により防風通聖散証が多かったのではと推測されます。

*現代における臌毒証体質と防風通聖散

前述のとおり、臌毒証体質と生活習慣病とは深い関係があるのですが、森道伯先生が防風通聖散を多用されていた頃は、高血圧症に対して有効な降圧剤がなく、コレステロールについても有効な西洋薬がないばかりかコレステロール値を測定することもされていなかった時代です。糖尿病に関しても同じです。しかし、この2-30年で、生活習慣病に対する認識、治療は大きく様変わりし、効果が確実で安全な降圧薬、降脂薬、抗糖尿病薬が多数開発され、また、健康診断の習慣化、食事に対する意識の変化などから、いわゆる臌毒証体質そのものが減少し、防風通聖散を使いたいなあという患者さんも私が医師になったころに比べても大きく減少している印象があります。また、あまり知られていませんが、防風通聖散に含まれる「黄芩(ワゴン)」という生薬に肝機能障害などの副作用があるため、ナイシトールやココアポなどを安易に“やせ薬”として用いる事には大きな問題があります。ちなみに、私の外来では防風通聖散を用いる場合は、ほとんどが煎じ薬で「黄芩」を抜いた処方になっています。

3) 解毒証体質：最後は解毒証体質です。これは前回にも書きましたように、小児期では慢性扁桃腺炎や気管支炎、青年期ではアトピー性皮膚炎や副鼻腔炎あるいは難治性の尋常性痤瘡(ニキビ)、壮年期では慢性前立腺炎など、慢性炎症性疾患と関連する体質で、当時は結核体質とも言われていました。この体質の方は、一般に皮膚が浅黒く、概して痩せ型で筋肉質と言われています。どちらかというと、神経が過敏な方が多く、お腹の診察でも腹直筋の緊張が強い方がほとんどです。代表的な処方としては、小児期：柴胡清肝湯(サイセウカンリウ)、青年期：荊芥連翹湯(ケイゲレンギョウリウ)、壮年期：竜胆瀉肝湯(リウタンシャカンリウ)が用いられます。これらの体質は、いくつか混在する場合も多く、特に、瘀血証体質は臌毒証体質や解毒証体質と併存することが多いため、いくつかの処方を併せて用いる(合方)することもしばしばあります。私自身、森道伯、中島随象という一貫堂の流れの中で漢方を勉強してきた者であり、今後もこの伝統を受け継いでいく責務があると思っています。

休診のお知らせ

4月30日(土曜)西本院長・田川医師を休診とさせていただきます。

お車で来院される患者様へ

歩行者や近隣の方の迷惑になりますので、駐車場の指定されたスペース以外、及びクリニック周辺の道路には、駐車されないようにお願いします。駐車中のアイドリングもおやめください。駐車場に空きがない場合は周辺のコインパーキングをご利用ください。